

第4回 首都圏空港機能強化技術検討小委員会

開催日 平成26年3月14日（金）

場 所 中央合同庁舎3号館11階 特別会議室

主なご意見

【騒音影響】

- 羽田空港における飛行経路の見直しは、将来的に滑走路を増設した場合を念頭に置くと、特に意味のある検討である。
- 羽田空港における飛行経路の見直しについて、B737-800やB787などの低騒音機材や時間限定での飛行などについて検証が必要ではないか。
- 羽田空港における未利用時間帯の有効活用等についても検討すべき。
- 飛行経路の見直しに合わせ、新しい技術を用いた飛行方式導入の可能性の検討も行うべき。
- 羽田の騒音影響を軽減するための方策について、引き続き検討すべき。
- 羽田・成田の機能強化方策の検討にあたっては、今まで騒音がなかった地域に新たに騒音が発生する場合、住民感情に配慮して検討する必要があるのではないか。
- 空港処理容量拡大方策の検討にあたっては、空港処理容量拡大効果、環境影響、これまでの経緯等を総合的に踏まえる必要がある。

【異常発生時における回復性強化】

- 緊急時において、急に特別な管制運用を行うことは危険性が高まるので、留意が必要。通常時の運用方法としても考えておく必要があるのではないか。
- 環境基準を満たすことが前提だが、都心上空に空中待機の空域を設定することを考える方法もあるのではないか。また、到着機の空中待機は、処理能力の拡大にも有効な方策ではないか。
- ターミナル管制空域の拡大は、平常時の容量拡大にも重要。遅延拡大時や緊急時のバッファ容量として都心上空を活用することも検討してはどうか。

- 安全確保のためには、ある程度余裕を持っておく必要がある。最終取りまとめに配慮事項として明記すべき。

【発着枠の使用方法の見直し】

- 相対的に空いている枠を活用することは根本中の根本。羽田の未利用時間帯の使い方については、航空会社への働きかけも大事。成田空港についても、オフピーク時間帯をもっと活用する方策を考える必要がある。

【その他空港】

- 福島空港や静岡空港は首都圏という範疇に入れるには遠い印象を受ける。横田飛行場に民航機が運航できるようになる可能性はどの程度あるのか。
- 羽田空港の離発着機の飛行経路との競合という問題はあるが、木更津飛行場の活用は検討すべき。
- 木更津については、アクアラインが混雑していることが多いため、アクセスに問題があるのではないか。
- 静岡空港などは、観光需要等への対応という活用可能性もあるのではないか。

【制限表面】

- 安全を確実に確保した上で容量拡大の議論を進めるべき。
- 飛行経路の見直しに際しては、制限表面との関係を整理する必要がある。

【その他（これまでの小委員会の議論）】

- 小委員会での議論をとりまとめた後、自治体との協議のみ整えば実現できるという考え方ではなく、国民に対して十分なコミュニケーションを図る必要がある。利用者の目線で考えていく必要もある。
- 首都圏空港として、羽田と成田がお互いに補い合って発着枠を増やしていく検討も必要。
- 成田空港は、都心からの距離は遠いが、場所によっては所要時間で考えると近いということをもっと積極的にアピールした方が良いのではないか。

以上